

川端ぜんざい広場

博多区上川端町10-254

用途:準用河川博多川の管理用通路兼「ぜんざい広場」
 完成年月:平成6年4月
 所有者:福岡市(道路下水道局) 施工者:株式会社松田工務店
 設計者:設計集団 権 関係者:上川端商店街振興組合



「川端ぜんざい広場」は、上川端商店街の一角に位置し、博多川に隣接している。上川端商店街は博多を代表する街の賑わいを、両岸に遊歩道を備えた博多川は自然の開放感や潤いを醸し出している。このような街と川に面した敷地の中で、ぜんざいが販売され、木製の椅子やテーブルの周りには博多祇園山笠を紹介する掲示、飾り山笠、かき棒、法被の柄などが展示されている。また、商店街に対しては木質感のある店構えが、博多川に対しては八幡山笠の飾り山の姿が提供されている。これらが一体となり、街を回遊する人々に対して、博多の街の文化、川の自然を知り楽しむ機会、休息と滞留の場を提供している点で、「川端ぜんざい広場」はまちなみの魅力に貢献しているといえ、高く評価できる。

昭和40年代に建てられた集合住宅を改装し、「未来の雑居ビル」をコンセプトに、デザインや建築、アート、編集、ITなどのオフィスのほか、ギャラリー、レストランが入居する。さまざまなプロジェクトを仕掛け、文化を発信する場として定着しつつあり、世代や地域を超えて感度の高い人々が集い、新たな創造活動が触発されている。人が集まり、文化を創造、発信することで、ハードを超えたソフトの景観を作り出す。目に見える建物の内部から発散される目に見えないエネルギーは、ここを訪れる人々の中に充電され、再び街に出て行く。建物と人々の活動が一体化することで生まれたこの画期的な場を、新たな「景観」の概念として捉えた。



紺屋2023 project (第一松村ビル内)

中央区大名1丁目14-28

用途:テナント・共同住宅・事務所
 完成年月:既存建物昭和40年・プロジェクト開始平成20年4月
 所有者:有限会社ショーゾン
 設計者:no.d+a(number of design and architecture)
 施工者:上村建設株式会社(全体改修工事) 関係者:TRAVEL FRONT



2010.6.5 百景mini album「とおくをつなぐもの」
 Release Tour 福岡公演/主催:WOOD/WATER MUSIC

福岡パルコ

中央区天神2丁目11-1

用途:商業施設 完成年月:平成22年3月(改修工事竣工)
 所有者:学校法人都築学園
 設計者:竹中工務店九州一級建築士事務所
 施工者:株式会社竹中工務店九州支店 関係者:株式会社パルコ



今春3月、岩田屋旧本館跡に福岡パルコがオープンした。閉館から6年、このビルに再び灯りがともる日をどれだけ待ちわびたことか。開業日には、ライバルであるはずの渡辺通り沿いの商業ビルに、福岡パルコを歓迎する懸垂幕が一斉にかけられ、街をあげての祝福ムードとなった。74年目にして全面リニューアルされた当ビルは、真っ白い金属パネルとガラスで構成されたスタイリッシュな外観に、夜間はLED照明が施される。外壁の白い輝きは、この交差点に新しい時代が到来したことを告げ、夜の光の演出は交差点を行き交う人々の心をときめかせる。これは単なる商業ビルのリニューアルではなく、天神という愛され続ける街の再生の一幕なのである。

薄紅のつぼみが膨らむ桜の木を舞台に、心温まるドラマが繰り広げられた。昭和59年春。福岡市南区松原の桜並木が道路拡張のために伐採されることになった。それを知った市民が当時の故進藤一馬福岡市長あてに、命ごいの色紙を桜樹につるした。すると市長が「桜花惜しむ大和心のうるわしや とわに匂わん花の心は」の返歌を届けた。市民の願いが通じ、松原桜は伐採が免れただけでなく、永久の開花が約束されたのだ。短歌で桜の存命を嘆願した人、伐採をやめた工事現場の人、返歌した市長、地域の花守の方々…。大和心を伝える様々なドラマが、今でも脈々と息づいている。松原桜は、景観が単に視覚に訴えるだけでなく、見た人の精神や行為にまでも強く影響を与えることを物語っている。



松原桜

南区松原1丁目438-20

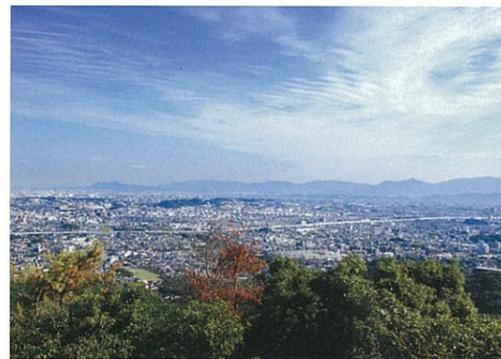
所有者:福岡市(住宅都市局)
 関係者:松原桜 花守会



油山 片江展望台からの風景

城南区大字片江106-1

用途:公園施設
 完成年月:平成9年12月
 所有者:福岡市(経済振興局)
 施工者:株式会社小山千緑園



眺めを楽しむ人の近傍の空間を視点場という。その設えに工夫することで、眺めの対象に手を加えることなく、印象深い景観を創出することができる。北斎の富嶽三十六景や比叡山を望む圓通寺借景庭園などが、視点場のはたらしめを示す好例である。油山片江展望台は市街地からほど近く、気軽に福岡市の全景を一望できる身近な視点場だ。秋には大パノラマの都市景観を背景にして、準絶滅危種のタカノ一種であるハチクマの渡りが楽しめる。今年は七年ぶりの地元の「タカ」の復活を祝福するかのように、翌日に二千三百を超える記録的な数が観察された。親しみやすく、象徴的な視点場であるこの展望台は、福岡のかけがえのない景観資源のひとつである。

モミジアパートメントは、西鉄高宮駅にほど近い特別緑地保全地区に隣接した閑静な住宅地にある建物である。前面の道路に面してしつらえた板塀やくぐり戸は、「焼き杉」風に深みのある茶系でまとめられ、岩肌を活かした石積み風の塀壁とともに落ち着いたファサードを創り出している。建物の外観は、漆喰をイメージさせる白を基調としたシンプルなもの、全体として、モノトーンで「和」の雰囲気を感じさせつつモダンさも併せ持つ建物となっている。塀から覗く「モミジ」や西側隣地との間に設けられた空地など周辺景観への配慮も感じられ、とくく無機質、機能優先になりがちなこの種の建物の殻を打ち破る試みを感じられる。今後ともモミジや空地などが適切に管理され、緑豊かな景観に一層馴染んでいくことを期待したい。



モミジアパートメント

南区多賀1丁目31

用途:住宅 完成年月:平成22年4月
 所有者:池松正剛
 設計者:株式会社ブルク
 施工者:株式会社大匠建設

